

わかって来た口腔と全身の関わり

技工操作における咬合平面の重要性

歯科医療は、幼児から高齢者までの方々を対象に、顎口腔系における機能の回復を目的として行われます。機能とは咀嚼、嚥下、発音、審美はもちろんですが、咬合が関与する重要なものには呼吸、姿勢、身体運動能力も含まれます。

それゆえに、全身の健康維持に大きく関与し日常生活の質も左右していると考えられます。また成長発育期は勿論の事、それ以降の生活習慣が咬合に影響を及ぼす事も知られています。顎顔面頭蓋形態と頭位や全身姿勢を機能面から捉え歯科医師により審査・診断を的確に行い個々に適した咬合構成を設定して行く事が必要になります。このような中で治療後の長期安定を得るには、口腔と全身を調和させる事が非常に重要です。臨床現場においては、複数の資料から根拠を示した咬合平面を与えることで、適正な咬合高径、下顎位を決定することが可能であり、それぞれの分析を基に整合性がとれるように関連付けることができる。軟組織上の基準をもとに歯科医が咬合平面・咬合高径・顎位を採得し、模型・写真・セファロ分析・顎機能検査器等の分析を行う。我々歯科技工士の果たす役割は、分析資料の情報を咬合器に再現する事が非常に重要であり診断内容がより明確になり補綴物の長期安定にも繋がると思われる。つまり分析資料を基に生体に調和した技工物が、頭蓋骨の中でどの位置関係にあるか考察しながら咬合器上で修正して行く事で、矛盾点が紐解かれ整合性が得られる。この事から歯科医師と歯科技工士が共通認識を踏まえて議論する事は、問題点の抽出や治療のゴールが明確になり、最終補綴物の考察もより具現化できると考えられる。今回、咬合再構成を行う際の基準平面の設定の重要性について技工操作から報告させていただきます